５　令和３年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①学力向上と高いレベルでの進路希望実現に向け、新たな教育課程を編成するとともに、不断のカリキュラム・マネジメントにより授業改善・教育活動の充実に取り組む。 ②知識の習得とともに、生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、自ら課題を発見し解決する探究力や思考力・判断力・表現力を育成する。 ③学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的行動、協働と創造による取組を促進する。	②主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、高いレベルでの思考力・判断力・表現力を育成しつつ、学習に対する探究的な態度を身につけさせる。	②年間授業改善計画に基づき、教科・学年・グループが横断的に情報を交換しながら、４半期程度のサイクルの中で新たな課題の発見につとめ、手法の多角化・多様化を図りつつ継続的・組織的に業務を遂行する。	②「生徒による授業評価」の諸項目の数値等。 生徒が主体的・対話的で深い学びをしているか、高いレベルで思考力・判断力・表現力を身につけたか、探究的な態度を身につけたか。（教員相互の授業見学等における見取り、職員研修会における相互評価等）
2	生徒指導 ・支援	①学校生活のあらゆる場面で、社会規範や自己管理能力など社会人として必要な資質を身に付けさせる「人づくり」を行う。 ②部活動を通じて、社会性や自主性、協調性等を涵養する。 ③生徒一人ひとりの個に応じた組織的な相談・支援体制を充実させる。	③生徒一人ひとりが抱える課題などに応じるために、相談窓口の適切な設置や相談体制を整える。生徒からの情報を学校全体で共有し、個で対応するのではなく、組織で対応できる体制づくりをし、生徒が安心・安全に生活できる学校を目指す。	③スクールカウンセラーの積極的な利用をはじめ、各機関との連携を密にしながら、課題に対応していく。ケース会議などを活用し、広く情報の共有を図るとともに、組織として取り組めるようにコーディネーター中心に学年などの隔たりなく対応をしていく。	③生徒一人ひとりの課題に真摯に向き合い、解決に向けて対応・取り組むことができたか。職員が対応を抱えることなく、学校全体で取り組むことができたか。
3	進路指導 ・支援	①国際社会や地域社会で活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成するため、学校外の教育力も活用して、キャリア教育、グローバル教育を充実させる。 ②進路指導計画に基づき、体系的な３年間の進路指導プログラムを実践し、生徒の進路希望を実現させる。	②進路指導計画に基づき、組織的な進路指導を行うとともに、その実現に向けた学習を支援する。	②大学出張講義やキャリアガイダンス社会人編を行い、進路目標を定める機会を作る。先を見据えた進路指導のプロセスを明示し、進路説明会の内容を充実させる。生徒のニーズに応じた講習や補習を行い、学力向上の支援を行う。	②生徒が進路目標を定めることができたか。進路第一希望の実現に向けて学力を向上させることができたか。
4	地域等との 協働	①地域や家庭との連携・協働による教育活動を推進し、地域・家庭の期待や信頼に応える学校づくりを進める ②学校の魅力・特色を伝えるため学校の情報を積極的に外部へ発信し、広報活動の充実に努める。	①地域と学校の交流行事を充実させ、地域や家庭に本校の魅力を知ってもらい、期待や信頼に応える学校を目指す。	①北陵祭では、湘南地区の飲食店等を招致し、地域の活性化と交流を図る。生徒会や部活動の活動を通じて、地域との交流の機会をもつ。探究の時間において遺跡講話を実施し、地域とともに学習する機会とする。	①地域と充分に連携・協働が図られたか。本校の魅力が発信できたか。（担当者評価）
5	学校管理 学校運営	①研修など日ごろの意識啓発により、教職員一人ひとりの危機管理意識を高め、業務の共有・協働・効率化を進め不祥事を防止する。 ②生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。 ③円滑で効率的な学校運営のため、常に検証・改善を重ね、教員の働き方改革に取り組む。	①不祥事防止研修を行い、教職員一人ひとりの危機管理意識を高める。 様々な研修会において意見交換をすることにより、業務の共有・共同・効率化を図り、未然に不祥事を防止する。	①職員会議での不祥事防止研修について、職員が自分のこととして考えるよう形態を工夫する。 不祥事防止研修以外の研修においても、互いに意見を言い合える場を設定することにより、共通認識の醸成を図り、不祥事を未然に防止する。	①不祥事を未然に防ぐことができたか。（職員間評価）

	視点	校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
		達成状況	課題・改善方策等	（12 月 15 日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	②年間授業改善計画に基づき、組織的・計画的に取り組んだ。	②観点別評価の精度をより高めること。 次年度入学生から３観点評価に対応すること。 教科に関わらず有効な研究協議を実施すること。	②３観点評価に向け、大学への推薦基準も検討する必要がある。 オンライン授業を充実させてほしい。人と人との教え合いにより学力が定着する。オンライン授業やその他の教材利活用について、研究してほしい。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、思考力・判断力・表現力を育むための、探究的態度を身に付けさせることが必要である。	②組織的な授業改善を通じて観点別評価の手法と今後改善すべき課題についての職員の共通認識が深まった。「関心･意欲･態度」「主体的に学習に取り組む態度」を公平かつ客観的に評価する方法について教科の特性を踏まえてさらに精度を高める。 オンライン授業、ＩＣＴを活用した授業、グループワーク･ペアワーク、プレゼン、探究型ディベートなどの定着が見られるが、引き続き手法の改善と共有が必要である。	②年間授業改善計画に基づき、教科･学年･グループを超えて成果と課題の共有を機能的に繰り返すこと。
2	生徒指導・支援	③学年・保健室・SC 等との連携を図り、生徒が抱える課題に応じて、対応し、継続的に取り組んだ。また、生徒の情報を共有することで、迅速な対応をすることができた。	③迅速な対応を図りつつも、満足のいくような状況ではないので改善が必要であり、学校生活での生徒の様子をよく観察し、何か小さな事でも対応していく細やかな対応に取り組んでいく。	③生徒が教員に相談しやすい雰囲気作りの工夫が必要である。	③教育相談体制を整え、生徒の抱える課題に対して、教員・保護者・ＳＣ・ＳＳＷなどそれぞれが連携し、対応することができた。また、担任などが一人で問題を抱えてしまうことがないように学年や学校全体で情報を共有し、取り組むことができた。しかし、すべての事案が改善に向けて動けているわけでないので、継続的な支援が必要である。	③学年やクラスが変わることで、生徒の環境の変化や対応する人も変わってくるので、そこで積み重ねてきた支援等が途切れてしまわないように、情報を共有しながら継続的に取り組んでいく。
3	進路指導・支援	②大学出張講義やキャリアガイダンス社会人編、大学見学の内容を充実させ、進路について考える機会を作った。夏期講習や大学入試対策講習など、生徒のニーズに応じた講習や補習を行った。	②進路指導計画を検証し、進路説明会や個人面談等の時期や内容を更に充実させる。 生徒のニーズに応じた講習について、教科毎に検討し、その内容を更に充実させる。		②大学見学や大学出張講義は、実施形態を変えたが、内容を工夫して実施したことにより早い段階から進路への意識付けが根付いたと考えられる。 また、長期休業中の講習等を実施することにより、学習習慣を身に付けるきかっけを作った。しかし、今年度新たに放課後の進学講習を企画したが、コロナ禍の影響もあり、内容の充実には至らなかった。	②カリキュラムが変わることから、今後も早い段階での進路への意識付けとなる機会を作る。また、進学へ向けた学習の支援体制について教科に協力を呼びかけ、更に充実させる。
4	地域等との協働	①コロナ禍のため、実施には至らなかったが、11 店舗の協力が得られた。そこでの話し合いで本校の地域連携の取り組みの意図について理解していただけた。	①今年度の計画段階でのありかたを検証し、より地域や家庭との連携・協働を充実させる。北陵祭などでの地域との交流活動により積極的に取り組む。	①地域等との協働を考える場合、移転先も考慮し、地域を絞ってみてはどうか。遺跡を通じて地域との連携を図ると良い。 地域と学校との協働により、地域の活性化や学校の学びに繋げられるよう工夫してほしい。	①北陵祭での地域飲食店等との連携は計画段階までで中止となってしまったが、地域連携・協働による学校・地域の活性化への取組は、来年度も継続し是非実現させたい。生徒の飲食販売と地域飲食店が共存し、生徒と地域との交流が最適となるよう検討する。遺跡講話が２年ぶりに実現した。地域の小学校の遺跡学習会に資料を提供した。	①地域との綿密な連携・協働を進め、活性化へ繋げていく。さらに生徒と地域との交流活動を積極的に進め、学びの機会としたい。
5	学校管理 学校運営	①不祥事防止研修や、その他様々な研修において、職員間での意見交換をすることができた。	①今後も職員一人ひとりの危機管理意識を高め、不祥事を防止する。		①具体的なテーマを設定して、不祥事防止研修を実施した。職員間の意見交換により、不祥事防止に向けた考えを共有することができた。自分事としてとらえやすいテーマ設定が今後の課題である。	①不祥事防止研修において、専門家の講話等を取り入れ、より実践的なテーマを設定する。